

IV 大学等の将来像について

認定者は、今後、入学者や留学生はどのように変化すると考えているのか、また、大学等の将来像をどのように考えているのだろうか。本項目も、副学長等のアンケート調査と同じ内容であり、比較できるように同結果に合わせて掲載しているので参照されたい。特徴的な内容は以下のとおりである。

問18 大学等の将来像

(1) 入学者の変化 (34～35頁の問11(1)の表に掲載)

「入学者数はあまり変わらない」と考える認定者は少なく、84.8%が「そう思わない(変わる)」と回答している。「進学率が増えるので、少子化が進んでも入学者は減らない」については、「そう思わない」は95.7%である。「少子化が進み、入学者は減少する」と回答している認定者は、93.5%である。「地元通学の学生が増える」と回答している者も69.6%である。

(2) 留学生の変化 (35～36頁の問11(2)の表に掲載)

外国人留学生については、認定者の50%が「留学生が増える」と回答している。一方、「奨学金や住居の整備等が進まない限り、留学生は増えない」という回答も57.8%である。また、「日本での就職が進まない限り留学生は増えない」も41.3%になっている。

(3) 大学の将来像 (37頁の問11(3)の表に掲載)

大学の将来像については、「大学等の統廃合が進む」と回答した認定者は91.4%である。また、「大学等は研究中心、教育中心等に2極化・専門分化する」が67.4%、「大学等はリベラルアーツ型と職業教育型に2極化する」も67.4%になっている。

「大学間の地域差が顕著になる」とみている認定者は89.2%であるが、「地域の重要な拠点となり、地域との連携が進む」と考えている認定者も66.4%である。

問19 今後の学生支援の在り方 (38頁の問12の表に掲載)

今後の学生支援の在り方について、認定者は「学生支援を大学・短期大学の評価項目として重視すべきだ」(48.9%)と回答する者が多い。次いで、「学生支援に関する専門職員を整備すべきだ」と回答した者は42.6%、「教職協働をもっと進めるべきだ」が34.0%になっている。

問20 ネット社会の影響

(1) 情報化の進展が大学や学生に及ぼす影響 (40～41頁の問13(1)の表に掲載)

認定者は、情報化の進展により、大学や学生はどのように変わっていくと考えているのであろうか。

「ネットを活用してお互いの得意分野を相互に活用した教育研究が促進され、大学間の連携が進む。」と回答した者は45.7%である。また、「それぞれの分野の単位をネットを利用して複数大学から取得し、卒業要件を満たせば学士や修士の資格が得られるようなバーチャル型大学が出現する。」と回答した者も43.5%になっている。

情報化の進展は「学生同士、学生と教職員の接触が少なくなり、人間的な触れ合いが減ってくる。」と回答した者は45.7%、「ネットで結ばれた関係が多くなる一方、同窓会、サークル等の学内での仲間意識が希薄になる。」と回答した者も47.7%になっている。

情報化社会の進展は、大学・短大に大きな影響を及ぼすと考えている様子がうかがわれる。

(2) ネット社会が進展する中で学生支援に必要なもの (42～43頁の問13(2)の表に掲載)

ネット社会が進展する中で、ほとんどの認定者が様々な対応が必要であると考えている結果が示されている。

・通信機器等の環境を整備するとともに、学生が自由に活用できるような教育環境を充実させる必要がある。

「とてもそう思う」、「そう思う」 88.0%

・ネットだけでは人間的な接触が足りないので、学生生活の中でコミュニケーションの機会をできるだけ設ける必要がある。

「とてもそう思う」、「そう思う」 98.3%

- ・障害のある学生等で通信機器等の利活用ができない、又は苦手な学生もいるので、学生の実態に即した支援を心掛けるべきである。
 「とてもそう思う」、「そう思う」 94.8%
- ・ヘイトスピーチや個人情報の流出が増えることのないよう、情報リテラシーをしっかりと行う必要がある。
 「とてもそう思う」、「そう思う」 100.0%
- ・ネットを利用した事故等（振込詐欺や著作権侵害等）に巻き込まれないよう、入学時等での教育をしっかりと行う必要がある。
 「とてもそう思う」、「そう思う」 100.0%
- ・現状でも注意しているので、このままでよい。
 「そう思わない」 95.7%